

# 令和5年度第1回南砺市文化財保護審議会

令和5年6月26日(月) 14:00  
南砺市役所3階 302会議室

委員委嘱

会長選出

会長あいさつ

南砺市文化財保護審議会名簿 . . . . 資料1

議事

1 南砺市文化財保存活用地域計画(案)について . . . . 資料2・3・4

2 迎月亭について . . . . 資料5  
現地確認

現地確認後審議

## 南砺市文化財保存活用地域計画 概要版

令和6年3月 南砺市 文化・世界遺産課

【計画期間】令和6～11年度（6年間）

【面積】約669km<sup>2</sup>

【人口】約4.7万人（2023.1現在）



## 指定文化財件数一覧

文化財の種類	国				県		市	総計
	指定	選定	選択	登録	指定	指定		
有形文化財	8	—	—	24	17	106	155	
建築物	5	—	—	24	6	12	47	
美術工芸品	3	—	—	0	11	94	108	
絵画	0	—	—	0	2	11	13	
彫刻	1	—	—	0	5	22	28	
工芸品	0	—	—	0	2	13	15	
書跡・典籍・古文書	2	—	—	0	1	34	37	
考古資料	0	—	—	0	0	6	6	
歴史資料	0	—	—	0	1	8	9	
無形文化財	0	—	—	0	0	0	0	
民俗文化財	1	—	2	0	4	8	15	
有形の民俗文化財	0	—	—	0	2	2	4	
無形の民俗文化財	1	—	2	0	2	6	11	
記念物	4	—	—	0	7	87	98	
遺跡	3	—	—	0	1	48	52	
遺跡・名勝地・地質鉱物	0	—	—	0	0	1	1	
名勝地	0	—	—	0	0	4	4	
名勝地・地質鉱物	0	—	—	0	0	4	4	
動物・植物・地質鉱物	1	—	—	0	6	30	37	
文化的景観	—	0	—	—	—	—	0	
伝統的建造物群	—	2	—	—	—	—	2	
総計	13	2	2	24	28	201	270	

未指定文化財は、1,752件把握(2023.3現在)

# 基本目標 市民一人ひとりが、南砺文化に愛着と誇りを持てるよう、価値を損なうことなく醸成させ次世代へと継承する

## 歴史文化の特徴

豊かな自然・人とモノの交流・篤い信仰が相まって育まれた。

### 南砺の自然と風土

南砺市は北部の平野部と南部の山間部に分けられる。平野部は庄川と小矢部川の豊富な水源による肥沃な土地で水田地帯が広がる。市の8割を占める山間部は1,000~1,800m級の山々からなる豪雪地帯である。

### 厳しくも豊かな自然との共生が形成した希少な集落景観－五箇山の合掌造り集落と散居村－

山間部の深い谷あいの中腹やわずかな段丘上には、豪雪の気候・固有の産業・深い信仰などの風土の中で歴史文化が培われ、合掌造り家屋の集落が形成された。水田地帯が広がる平野部では、屋敷林に囲まれた「アズマダチ」と呼ばれる民家が点在する散村が多く見られ、他にはない景観を形成している。

### さまざまな自然環境が魅せる景観と天然記念物

山間部を中心に豊かな自然環境がつくる貴重な地形・地質・植物があり、自然界の妙を今に伝える。

### 交流の歴史と文化

遥か3万年前から連綿と続く人とモノの交流が、南砺の礎を築きあげ、固有の産業とともにまちを発展させてきた。



### 遥か太古より続く交流と暮らし

旧石器・縄文時代の石器の石材などに交流の跡がみられ、古代には東大寺に多くの荘園を寄進した有力豪族が台頭し、また荘園管理施設も置かれている。

### 門前町・市場町と五箇山独特の産業

平野部には門前町・市場町としてまちが開かれ、峠道を通して山間部の産業が入り込み、人とモノの交流が活発化した。山間部では塩硝・和紙・養蚕業が盛んになり、町部では織物業が栄えた。歴史的なまちなみや峠道は今も残っている。

### 篤い信仰と文化圏

南砺市にはさまざまな寺社が存在しており、人々の篤い信仰心が息づく文化圏を形成している。



### 広く浸透した浄土真宗

古来よりさまざまな神仏信仰がある中で、この地に広く長く浸透したのは浄土真宗であった。浄土真宗は平野部・山間部問わず広く浸透しており、瑞泉寺や善徳寺をはじめとする数々の寺院やその跡地などの遺構がある。越中最初の真宗一向一揆の舞台ともなる地である。

### 信仰によって生まれた生業と文化

絆如が建立した井波瑞泉寺の再建により、井波の彫刻技術が生まれ、彫刻のまちとして発展していった。五箇山では塩硝や糸が中世より本願寺に納められていた。浄土真宗の行事には報恩講料理などの食文化も根付く。

### 山・鉾・屋台・行燈行事をはじめとする祭礼行事

信仰の象徴として多彩な山・鉾・屋台・行燈行事が残っている。曳山などは江戸時代の町の経済力と職人の技術の粋が集められた精巧・優美なものへと発展している。



## 基本理念

## 誇りある南砺文化の醸成

## 文化財等の課題

### 把握・調査・価値づけ

- ①文化財の掘り起しと把握及び調査研究が必要
- ②文化財の調査研究による価値づけが必要

### 保存・整備・継承

- ①継続的に文化財を守るための-整備・設備・計画が不十分
- ②文化財の保存管理計画が不十分
- ③文化財の防災・防犯体制の確立・充実が必要
- ③文化財の担い手、継承のための仕組みづくりが必要

### 活用

- ①地域・関係団体等との連携が不十分
- ②文化財の発信力が弱い、活用が不十分
- ③文化財が地域教育に活かされていない
- ④文化財保存・活用体制の組織整備が必要

## 基本方針

### ①南砺文化を知る

南砺文化を把握し、調査・研究して、価値を明らかにする  
①文化財の調査研究の推進  
②文化財の指定・登録の実施

### ②南砺文化を守る、受け継ぐ

南砺文化を守る仕組み・制度を整えて保存継承していく  
①文化財の管理・保存・整備・継承の継続の実施  
②保存管理計画の作成  
③防災体制の整備の推進  
④後継者育成の実施

### ③南砺文化を活かす、磨く

南砺文化の価値を発信し、地域連携を深めて、活用を図り魅力を高める  
①地域の連携の強化  
②文化財等の魅力発信と活用の推進  
③地域教育への普及  
④専門職員の配置

## 措置

- [1] 指定等文化財の調査
- [2] 登録有形文化財候補物件の調査
- [3] 発掘調査の実施
- [4] 未指定文化財の把握調査
- [5] 文化財保護審議会や各種専門委員会の開催
- [6] 文化財の指定
- [7] 建造物の登録の提案
- [8] 文化財のパトロール
- [9] 指定等文化財の保存・整備・継承
- [10] 景観の保全
- [11] 文化財収蔵庫の整備・管理
- [12] 保存活用計画の作成
- [13] 文化財防火訓練
- [14] 指定等文化財の防災・防犯設備の整備・支援
- [15] 指定等文化財の防災計画の作成
- [16] 指定等文化財の保存・修理・整備のための支援
- [17] 後継者育成への支援
- [18] 文化財伝統技術等後継者育成
- [19] 文化財調査・活用を行っている団体等との連携強化
- [20] 文化財愛護団体への支援
- [21] 世界遺産等所有他自治体や文化財保護団体への連携
- [22] 文化財関係手続等の周知
- [23] 説明板等の設置・整備
- [24] 広報・HPへの定期的な情報発信
- [25] 魅力的な祭礼の紹介動画の作成と発信
- [26] 文化芸術アーカイブズの充実
- [27] 文化財ガイドの育成・充実
- [28] 企画展示の開催
- [29] 文化財を活かしたイベント等の開催・支援
- [30] 紹介リーフレットの作成
- [31] 指定等文化財周辺環境及び関連施設の整備・支援
- [32] 文化財の観光資源としての持続可能な活用とその支援
- [33] 文化財の利活用とその支援
- [34] 小学校社会科副読本の改定
- [35] 文化財出前講座
- [36] 文化財体験ワークショップの開催
- [37] 専門学芸員の充実・配置

## 南砺市の歴史文化＝南砺文化

# 関連文化財群の設定

## 南砺の自然と風土



### ①悠久の原風景－五箇山の合掌造り集落と散居村－

市の8割を占める山間部には、豪雪地帯の深い谷あいの中腹及びわずかな段丘上に五箇山の集落が形成されている。豪雪の気候・固有の産業・深い信仰などの風土の中で生活文化、生業が培われ、合掌造り家屋が発達してきた山村集落である。平野部と違い水田に乏しく米があまりとれない地域であったため、養蚕、塩硝づくりや和紙生産などの生業が営まれ、生活を支えてきた。合掌造り家屋はそのような生業と豪雪への対応から生まれた、茅葺きで又首構造の急勾配の切妻屋根の建物である。合掌造り集落としては相倉・菅沼の2集落が残っている。このほか五箇山地域には合掌造り家屋が点在して残っている。

南砺の北部は平野部となっており、小矢部川・庄川の豊富な水源により水田地帯が広がっている。広大な耕作地には民家が点在する集落が形成されており、国内最大級の散居「砺波平野の散村」として知られている。家の周りに水田を確保・管理することで効率的に農作業を行うことができた。散村の屋敷地には主屋を中心として納屋・土蔵・灰小屋などがあり、それらを取り囲む屋敷林（カイニョ）からなり、他では見られない景観を形成している。主屋は瓦葺の大きな切妻屋根の民家が多く、「アズマダチ」と呼ばれる。

南砺の平野部・山間部ともに、自然との共生により形成された集落景観が残り、希少な文化財として現在に伝える。



### ②南砺の自然が織りなす景勝と天然記念物の妙

南砺市は富山県の南西部に位置し、北部の平野部・南部の山間地に大別できる。南部の山間地から日本海へと流れる小矢部川と庄川により、北部の肥沃な平野部が形成されている。山間地には豊かな自然環境がつくる貴重な地形・地質・植物などがある。

市中央部から北東にかけて高清水山を中心とした高清水山地がそびえ、主に新第三紀の火山活動の安山岩類、凝灰岩や凝灰角礫岩からなっている。この地層は硬く浸食されにくいもので、庄川沿岸では急峻な地形が発達し絶壁の深谷が形成されている。また巨大な立石で知られる天柱石も安山岩と凝灰角礫岩からできている。

市西部には医王山から南へ小矢部川の源流となる大門山に続く急峻な山岳地帯が広がる。これらの地層には流紋岩、凝灰岩や凝灰角礫岩からなり、庄川沿いと同じく深いV字の深谷が形成されている。小矢部川上流の刀利の地層には、非常に硬い礫で多様な色がある珪石が分布し、江戸時代中期から玉細工の原石として利用された。立野原台地では鉄石英・メノウが産出し、石器に利用されている。

植生は、南の温かい地に生育する植物と北の寒い地に生息する植物とが交差する地点で、植物が多様化しており、標高800mの縄ヶ池には北方系のミズバショウ群生地、赤祖父山の麓にも北方系のフクジュソウ自生地など希少価値が高い植物が自生している。

## 交流の歴史文化



### ③いにしへの遺跡が語る交流と暮らし

南砺地方における交流文化の黎明は約3万年前の旧石器時代にさかのぼる。市南部の山間地と北部の平野部の中間に位置する立野ヶ原台地から多くの旧石器が発見されており、長野や新潟など北信越の影響を受けた石器や青森県産の黒曜石の石器もある。太古の人とモノの交流を示す先例となっている。縄文時代には、黒曜石の石器、ヒスイ製大珠など遠方から運ばれてきた石材が使われているほか、縄文土器の文様も狭い範囲での地域性の強いもの、関東や近畿地方の影響を受けたものなど様々な交流の跡を見ることができる。古代では荘園管理施設として高瀬遺跡が富山県内の代表的な遺跡となっている。また、東大寺に多くの荘園を寄進し、同寺と密接な関係を持った利波臣志留志は、古代砺波郡を代表する有力豪族である。このように古来より人とモノの交流を示す文化財が色濃く残っている。



### ④門前町・市場町と五箇山の産業が紡いだ交流文化

中世末・近世には城端善徳寺や井波瑞泉寺の門前・市場町として城端・井波が開かれ、慶安5年には福野が町立して、福光は寛文11年に藩の御蔵が設置され急速に成長した。これにより人とモノの交流が活発化し、南砺の町部が形成された。山間部の五箇山は近世に加賀藩下となり、年貢としてあまり穫れない米の代わりに、塩硝・和紙・養蚕などの産業で得た金銭を納めた。これら製品などの物流は五箇山と城端・井波を結ぶ道で運ばれ、五箇山旧道として残っている。五箇山の塩硝は加賀藩に直接納められ、金沢にはいくつかのルートで運ばれた。五箇山の養蚕業は、城端や井波などの織物業に卸され、町部の絹織物などが発展した。

近世以降、活発化した交流がもたらした文化が現在の南砺の基礎を形成し、古いまちなみや峠道などの旧道などに足跡をみることができる。

## 篤い信仰と文化圏



### ⑤南砺に根付いた信仰と歴史

南砺には古代から真言宗安居寺や高瀬神社があり、古くから信仰の対象とされていた。医王山には山岳宗教の中心地として大小の宗教施設があった。さまざまな信仰があるなかで、特に地域に根付いたのは浄土真宗であり、市域まんべんなく広がりを見せている。明徳元年(1390)本願寺5代綽如が開いた瑞泉寺をはじめとして、本願寺8代蓮如が開いた砂子坂道場から幾度の移転を経て城端に移った善徳寺、高岡の勝興寺の前身となる高木場御坊跡や土山御坊跡など越中の中核的な寺院や寺院跡が数多く残る。蓮如の教化を受けた五箇山の赤尾道宗も道場を開き真宗の布教に尽くした。また南砺は、真宗門徒が加賀守護の弾圧に対して起こした越中初の一向一揆の地でもあり、その関連遺構などが多数残っている。

浄土真宗に関する文化財は市内至る所に残っており、報恩講など法要行事も行われ、今でも地域の人々の心のよりどころとなっているのがわかる。



### ⑥篤い信仰が生んだ生業・文化

南砺に広がった浄土真宗は地域の人々の篤い信仰を得ており、それによって南砺を代表する生業・文化が生まれる。井波別院瑞泉寺は江戸時代中期に火災で焼失しているが、その再建に端を発して井波彫刻が生まれた。井波彫刻は寺院欄間をはじめとする高い彫刻技術で、仏像・獅子頭・住宅欄間・曳山等彫刻にも施され、現在も受け継がれてきている。五箇山の重要な生業塩硝づくり・養蚕業は、塩硝・糸・絹として中世より本願寺に納められていた。

浄土真宗の行事には郷土料理が提供される。報恩講では報恩講料理が用意され、いとこ煮、よごし、赤かぶの漬物など地域性に富んだ料理が並ぶ。発酵食品の鯖のなれ寿司は善徳寺・瑞泉寺の仏事に伴って提供される。これらは地域の食文化として根付いている。

浄土真宗の教えに触れ宗教色の強い作品を残したのが、世界的な板画家の棟方志功である。棟方は戦時中に福光に疎開し、真宗の盛んな風土に触れることで代表作を数多く残した。浄土真宗への篤い信仰は、今日まで続く技術・食文化などを生み、南砺の特徴を示す文化をもたらした。



### ⑦信仰の象徴－多彩な祭礼行事－

信仰の象徴として祭礼行事がある。南砺では多彩な祭礼行事が行われ特徴の一つとなっている。神社祭礼として春季・秋季に舞われる市内さまざまな獅子舞をはじめ、神輿巡行にお供して渡御する山・鉦・屋台・行燈行事が代表的である。南砺の山・鉦・屋台・行燈行事は江戸時代から続くものであり、当時の町の経済力と在人の工人の技術の粋が集められた精巧・優美なものへと発展し、現在でも祭礼の形式や高い工芸技術などがよく残っている。

真宗寺院の行事としては親鸞の命日前後に行われる報恩講が代表的で信者にとっては大事な仏事となっている。また善徳寺ではちよんがれ踊りなどを奉納する一心講がある。こうした祭礼行事は、地域の文化を吸収して地域色が豊かになり、祭を支える地域コミュニティとともに現代へと受け継がれている。

# 関連文化財群の課題と措置 【赤字は重点事業】

## ①悠久の原風景－五箇山の合掌造り集落と散居村－

課題

- ①合掌造り家屋の継続的な保存継承の取り組みと支援が必要
- ②合掌造り家屋の防災設備の老朽化
- ③五箇山への観光回遊ルート等が不十分
- ④散居村の現状把握と景観保全に対する取り組みが必要

措置

- 【38】南砺市伝統的建造物群保存地区保存審議会及び南砺市五箇山景観審議会の開催
- 【39】長期計画による相倉・菅沼集落保存修理と維持管理
- 【40】重文建造物、相倉・菅沼集落防災設備更新
- 【41】重文建造物、相倉・菅沼集落の防災計画の作成
- 【42】重文建造物、相倉・菅沼集落指定文化財管理への支援
- 【43】白川村をはじめとする世界文化遺産所在地域との連携
- 【44】茅葺き屋根家屋の保存修理とその支援
- 【45】認定合掌造り家屋制度による保存活用等の推進
- 【46】五箇山マスタープランの改定
- 【47】茅場の整備への支援
- 【48】移住プロジェクトの実施
- 【49】交通バス等のルート整備・充実
- 【50】五箇山合掌の里の再生
- 【51】アズマダチの把握調査
- 【52】五箇山と散居景観の保全
- 【53】散居景観保全事業の実施

## ②南砺の自然が織りなす景勝と天然記念物の妙

課題

- ①定期的な植物・地質鉱物の状態確認が必要である
- ②盗掘・損壊等対策パトロールが必要である
- ③名勝地・植物・地質鉱物の周辺整備と魅力発信が不十分

措置

- 【54】植物・地質鉱物のドクターチェック
- 【55】盗掘・損壊等対策パトロールの強化
- 【56】名勝地・植物・地質鉱物の周辺整備
- 【57】名勝地・動物・植物・地質鉱物の魅力発信

## ③いにしへの遺跡が語る交流と暮らし

課題

- ①継続的な埋蔵文化財調査が必要である
- ②高瀬遺跡の保存・活用に向けての新たな計画が必要である
- ③遺跡発掘の成果や古代体験等の継続的な魅力発信

措置

- 【58】埋蔵文化財発掘調査
- 【59】埋蔵文化財包蔵地の周知
- 【60】高瀬遺跡保存活用計画の策定
- 【61】高瀬遺跡に関するイベントの開催
- 【62】古代体験ワークショップの開催



## ④門前町・市場町と五箇山の産業が紡いだ交流文化

課題

- ①伝統的なまちなみの保存のための把握調査、空き家の利活用、景観づくりへの支援が必要
- ②伝統技術について継続的な支援と魅力発信が必要である
- ③かつて物流や人の交流を語る峠道の整備が必要である

措置

- 【63】伝統的なまちなみ(建造物)の調査研究
- 【64】伝統的なまちなみの空き家等の利活用の促進
- 【65】伝統的なまちなみの景観づくりへの支援
- 【66】和紙生産などの伝統技術の継承支援
- 【67】五箇山和紙の発信
- 【68】峠道の整備等への支援

## ⑤南砺に根付いた信仰と歴史

課題

- ①真宗寺院群の建造物や古文書等の調査研究が必要である
- ②指定等文化財寺院群の修理等への支援
- ②浄土真宗の信仰と歴史の価値や魅力の発信が必要である

措置

- 【69】瑞泉寺建造物の調査
- 【70】指定文化財寺院建造物の維持管理への支援
- 【71】県指定「善徳寺文書」の調査支援
- 【72】真宗寺院群の企画展の開催
- 【73】真宗寺院群の紹介リーフレットの作成

## ⑥篤い信仰心が生んだ生業・文化

課題

- ①日本遺産の情報発信と関係団体との連携が十分ではない
- ②信仰が生んだ食文化の発信が必要である
- ③棟方志功の研究と発信が必要である

措置

- 【74】井波日本遺産推進協議会との連携
- 【75】報恩講料理等の食文化の普及啓発
- 【76】棟方志功作品調査研究
- 【77】棟方志功の企画展の開催

## ⑦信仰の象徴－多彩な祭礼行事－

課題

- ①獅子舞の保存継承、祭礼行事の総合調査が必要
- ②山・鉾・屋台・行燈行事の曳山・屋台等の修理への支援や後継者育成が求められる
- ③信仰と結び付けた祭礼行事の魅力発信が必要である

措置

- 【79】「南砺 獅子舞」事業の開催
- 【80】福野夜高曳山行事総合調査の実施
- 【81】曳山等保存修理への支援
- 【82】庵唄の後継者育成への支援
- 【83】曳山等修理に関わる伝統技術の継承・育成の支援
- 【84】市広報・HP等で山鉾屋台行事の魅力発信
- 【85】曳山等製作に関わった職人の紹介
- 【86】祭礼行事への支援

## 4つの重点事業

### 文化財調査の実施

指定等文化財の詳細調査・埋蔵文化財発掘調査・未指定文化財把握のための調査を行う

- 福野夜高曳山行事総合調査、善徳寺古文書調査、瑞泉寺建造物詳細調査、埋蔵文化財本調査、試掘調査、棟方志功作品調査、未指定文化財把握調査
- 取組主体 行政・地域・住民・専門家・所有者
- 計画期間 R6～11
- 当てはまる措置の番号 【1】 【3】 【4】 【58】 【63】 【69】 【69】 【71】 【76】 【79】

### 指定等文化財等の保存・整備・継承と支援

指定等文化財を適切に修繕・整備して継承する、またはその取り組みを行う文化財所有者等への支援

- 相倉・菅沼合掌造り集落内の家屋保存修理工事  
重文合掌造り家屋保存修理工事  
合掌造り家屋等の防災設備点検等の管理への支援  
城端曳山等保存修理事業への支援
- 取組主体 行政・地域・住民・専門家・所有者
- 計画期間 R6～11
- 当てはまる措置の番号 【9】 【14】 【16】 【39】 【40】 【42】 【44】 【54】 【66】 【80】

### 文化財調査・保存・活用等を行っている団体等との連携強化

文化財調査・保存・活用を行っている民間団体等を支援団体として指定し、行政と民間との連携を強化して文化財の保存・活用に取組む体制づくりを推進する

- 世界遺産相倉合掌造り集落保存財団、菅沼世界遺産保存組合等
- 取組主体 行政・地域・住民・専門家・所有者
- 計画期間 R6～11
- 当てはまる措置の番号 【19】 【74】

### 文化芸術アーカイブスの充実

文化芸術を紹介するアーカイブスHPの強化・充実

- 南砺市文化芸術アーカイブスの充実  
文化財紹介の連載、未指定文化財の紹介、市が取り組む事業の紹介など
- 取組主体 行政・専門家
- 計画期間 R6～11
- 当てはまる措置の番号 【26】

